大分県こどもの生活実態調査結果について

こども・家庭支援課

調査概要

（１）調査対象　小学５年から高校３年までの全８学年
　　小学５年と中学２年の保護者
（２）調査期間　令和６年６月２１日～同年７月１９日
（３）調査方法　無記名のＷｅｂ調査
（４）設問数等　児童生徒：最大６６問、保護者：最大２６問
（５）回 答 率　こどもの生活実態調査　７１．８％
　　ヤングケアラー実態調査　８４．３％

項目	調査対象者		回答数		回答率（前回との差）		前回調査
こどもの生活実態調査	児童生徒（小5・中2） 保護者（小5・中2）	39,012人	17,648人 10,389人	28,037人	90.4%（＋2.6） 53.2%（△30.5）	71.8%（△14.0）	R元年度
ヤングケアラー実態調査	児童生徒（小5～高3）	78,826人		66,474人		84.3%（＋12.3）	R3年度
合計（実人数）		98,332人		76,863人		78.1%	

・こどもの生活実態調査：保護者については前回は学校が紙媒体でとりまとめたが、今回はWebによる個人回答に変更したため、回答率が低下。
・ヤングケアラー実態調査：教育部門と共管したことで回答率が上昇。

１　こどもの生活実態調査

（１）こどもの意見

①大人や環境への認識

＜日頃大切にされているか＞
「そう思う、どちらかといえば」
93.4%

＜大人は意見を聞いてくれるか＞
「聞いてくれる、どちらかといえば」
93.6%

＜遊びや体験機会の充実度＞
「十分ある、ある程度ある」
87.7%

②自分への認識

＜自分らしさはあるか＞
「そう思う、どちらかといえば」
84.3%

＜今の自分が好きか＞
「そう思う、どちらかといえば」
71.1%

生活の満足度
１０段階評価で平均８点
（おおむね満足度の高い６点以上は全体の83.4%）

③将来への認識

＜将来設計を考えた機会の有無＞
「考えた機会がある」
74.3%

＜将来に明るい希望を持っているか＞
「希望がある、どちらかといえば」
79.4%

④結婚・子育てへの認識

＜将来、結婚したいと思うか＞
「結婚したい」 **50.7%**　「結婚したくない」 **10.2%**

＜こどもは、何人欲しいか＞
「0人」 **17.9%**　「1人」 **15.4%**　「2人」 **44.1%**　「3人以上」 **19.5%**

0人を含む平均値：**1.71**人

0人を除く平均値：**2.10**人

（２）保護者の意見

現在の暮らしぶり

区分	大変苦しい	やや苦しい	普通	ややゆとりがある	大変ゆとりがある
割合(%)	9.2	28.4	51.5	9.0	1.3
前回との差	△0.2	△0.3	△0.5	+1.2	+0.5

約５割が普通と感じている一方で、約４割弱の家庭が苦しいと回答。

子育てに必要な援助について（上位５つ）

区分	保育や学費の軽減	手当の充実	医療・健康サポート	奨学金制度の充実	放課後の学習支援
割合(%)	60.8	52.8	29.1	27.1	18.1
前回との差	+6.1	+4.8	△9.2	+7.6	△0.6

保育料等軽減、手当充実など経済的な支援を求める内容が上位を占めた。また、医療サポートや放課後の学習支援を求める回答も上位にあがった。

塾や習い事について

区分	スポーツ	学習塾進学塾	学校の部活動	絵画・音楽などの芸術の習い事	英会話・珠算などの習い事	していない
割合(%)	40.8	25.7	21.4	20.5	13.6	19.0
前回との差	△2.4	△3.2	－	+6.4	△0.5	△4.4

スポーツや塾に通う割合が減少し、芸術に関する習い事の割合が増加。通っていないこどもは約２割と減少。

今後の取組み

現行計画に引続き、次の4つの基本方針で総合的に支援を行う。
- ●教育の支援
- ●生活安定への支援
- ●保護者の就労支援
- ●経済的支援

2　ヤングケアラー実態調査

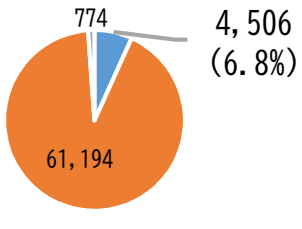
（1）調査結果の概要

①回答者の約**2．7％**（1,773人）が、「世話をしているためにやりたいけれどできていないことがある」と回答または「無回答」である。

この割合を、今回の調査対象者（78,826人）に当てはめると、**世話をしていることで困りごとを抱えている（ヤングケアラー状態の）児童生徒が県内で少なくとも約2，１００人いるものと推計**される。

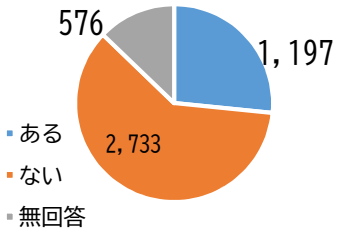
（R3調査では、約１．３％、約1,000人と推計）

お世話をしている人の有無（回答者全体66,474人）



うち

お世話をしていることで、できていないことがあるか



合計1,773人：ある1,197人＋無回答576人
→**回答者全体66,474人の約2.7%**
「無回答」には自ら援助を求めることができないものを含む可能性あり

お世話をしている人（複数回答）

続柄	割合（前回との差）％
兄弟姉妹	70.5　（＋ 7.6）
母	32.6　（＋10.0）
父	23.7　（＋17.1）
祖母	15.2　（＋ 5.6）
祖父	10.2　（＋ 4.8）

お世話の内容（複数回答）

内容	割合（前回との差）％
家事（食事の準備、掃除、洗濯）	48.7（＋ 6.9）
話し相手になる	44.5（＋22.0）
兄弟姉妹の世話や保育所等の送迎	27.9（＋ 9.6）
入浴やトイレのお世話	27.4（△ 3.1）
外出の付き添い	25.7（＋ 2.1）
目が離せない家族の見守り	17.4（△29.7）

②**ヤングケアラー認知度は約６６．０％とＲ３調査より向上**（Ｒ３：約２９％）

（ヤングケアラーという言葉を知ったきっかけ（複数回答）
学校61.7%、テレビや新聞等49.7%、SNS等28.7%、広報・チラシ等24.7%、友人等5.4%、イベント3.7%）

③ヤングケアラーの約４８．０％（８５２人）が、「相談経験がない」と回答。

この割合を全体に当てはめると、**ヤングケアラー２，１００人のうち相談経験がない児童生徒が少なくとも約１，０００人いるものと推計**される。

（相談するほどの悩みではない73.9%、状況が変わると思わない7.0%、話しにくい6.5%、
知られたくない4.9%、誰に相談するのか分からない4.4%、相談できる人が身近にいない2.2%）

お世話のためにできていないこと（複数回答）

内容	割合（前回との差）％
自分の時間がとれない	14.2（△4.0）
宿題や勉強をする時間がとれない	9.5（△2.6）
睡眠時間が十分にとれない	7.9（△3.2）
友人と遊ぶことができない	6.9（△3.4）
遅刻や早退、登校できない	3.3（－）
特になし	60.7（＋2.4）
無回答	12.8（＋2.3）

周囲が早期に気付き、こどもの状況に応じた支援につなぐとともに、支援を行いながら家庭状況を見守ることが重要

（2）これまでの取組み

Ｒ３年度	実態調査により約１，０００人存在と推計
Ｒ４年度	専用相談窓口（電話・ＳＮＳ）の設置、児童・生徒に相談先カード配布
Ｒ５年度	・県庁に専門アドバイザーを配置、教員など支援者向け研修会の開催 ・全市町村に相談窓口設置（１７８件の相談、うち４９件を福祉サービス等につなぐ）
Ｒ６年度	２回目の実態調査実施

（3）今後の検討事項

- **市町村相談支援体制の更なる充実に向けた検討**
- **専門アドバイザーの配置効果の検証と継続配置の検討**